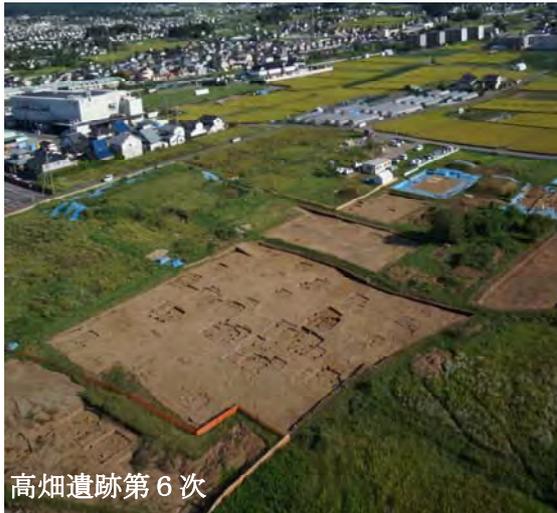


発掘された松本 2015

松本市遺跡発掘報告会



高畑遺跡第6次



銅鏡

殿村遺跡第7次



松本城下町跡本町第8次



松本城三の丸跡土居尻第6次

日時：平成28年2月6日（土）
午後1時～4時
会場：松本市時計博物館4階
本町ホール

松本市教育委員会

発掘された松本 2015

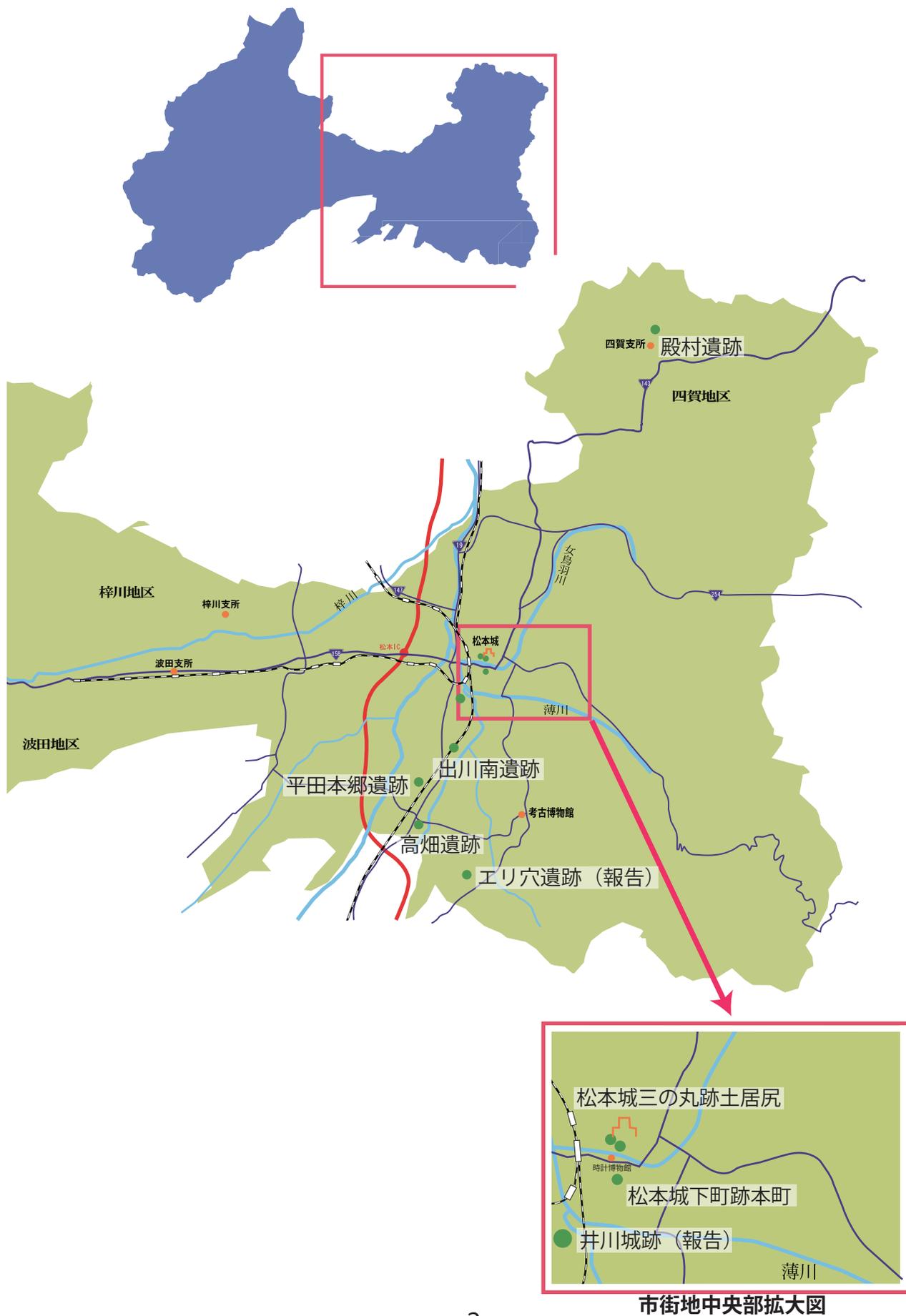
～松本市遺跡発掘報告会～

次 第

平成 28 年 2 月 6 日（土）

	司 会	松本市教育委員会 文化財課長	内城 秀典
13:00	開 会		
13:00～13:05	ご挨拶	松本市教育委員会 教育部長	宮川 雅行
13:05～13:15	趣旨説明・平成 27 年発掘調査の概要	松本市教育委員会文化財課 課長補佐	直井 雅尚
13:15～13:50	事例報告① 高畑遺跡第 6 次発掘調査	松本市教育委員会文化財課 主事	小山 奈津実
13:50～14:25	事例報告② 松本城下町跡本町第 8 次発掘調査（中間報告）	松本市教育委員会文化財課 主事	原田 健司
14:25～14:35	休 憩		
14:35～15:10	事例報告③ 松本城三の丸跡土居尻第 6 次発掘調査	松本市教育委員会文化財課 課長補佐	竹内 靖長
15:10～16:00	特別報告 「小笠原氏城館群」の調査 —井川城から林城へ—	松本市教育委員会文化財課 課長補佐	竹原 学
16:00～16:10	質 問		
16:10	閉 会		
16:10～	発表者による展示解説・質問（3 階企画展示室）		

平成27年の発掘調査遺跡



市街地中央部拡大図

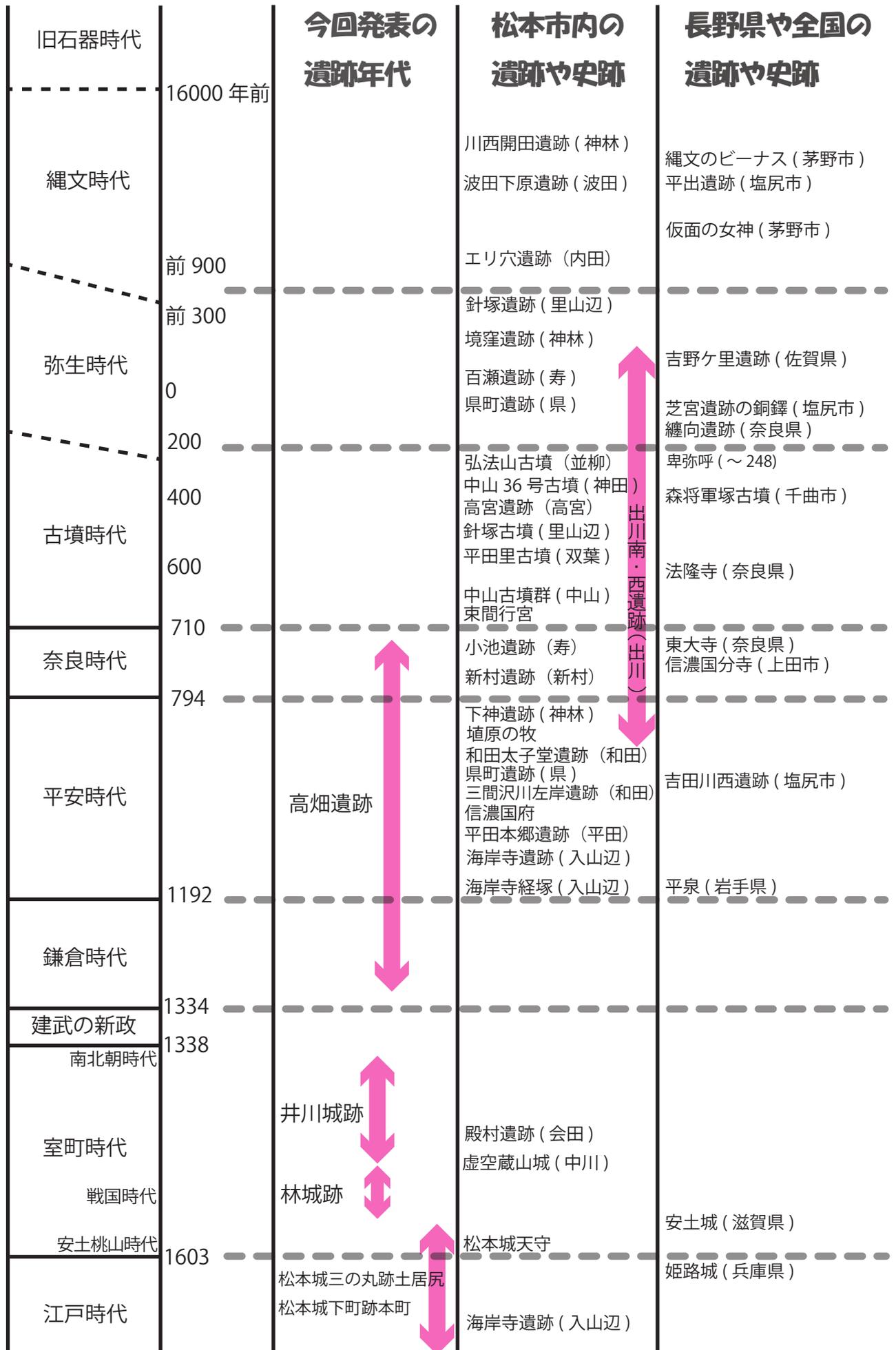
平成 27 年（2015 年） 埋蔵文化財発掘調査、報告書刊行一覧表

No.	遺跡・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴・備考
1	タカバタケ 高畑遺跡第6次	H26.5/19 ～調査中	約10,000 m ²	土地区画整理事業	奈良・平安時代	集落
2	マツモトジョウサン マルアト 松本城三の丸跡 ドイジリ 土居尻第6次	4/22～10/2	1,044m ² (Ⅰ～Ⅲ検 のべ面積)	松本城南・西外 堀復元等代替地	江戸時代	城郭・武家屋敷
3	マツモトジョウサン マルアト 松本城三の丸跡 ドイジリ 土居尻第7次	6/8～8/3	206m ² (Ⅰ～Ⅳ検 のべ面積)	松本城南・西外 堀復元等代替地	江戸時代	城郭・武家屋敷
4	マツモトジョウウカマチアト 松本城下町跡 ホンマチ 本町第8次	8/3～調査中	約2,200m ² (Ⅰ・Ⅱ検 のべ面積)	民間開発	江戸時代	城下町（町屋・推 定御使者宿）
5	トノムラ 殿村遺跡第7次	5/18～11/6	180m ²	遺跡整備事業	縄文・奈良・平 安時代・中世	中世遺構群
6	ヒラタホンゴウ 平田本郷遺跡第7次	10/27～11/12	247m ²	市道改良事業	平安時代	集落
7	イデガワミナミ 出川南遺跡第27次	4/15～5/29	165m ²	県道改良事業	古墳時代・中 世・江戸時代	県埋蔵文化財セン ター調査、集落
8	シナイイセキ カクニンチョウサ 市内遺跡確認調査	通年	—	試掘・立会	各時代	試掘
9	イガワジョウウセキ 井川城跡 (報告書作成)	通年	—	遺跡整備事業	平安時代・中世	城館
10	トノムラ 殿村遺跡第6次 (報告書作成)	通年	—	遺跡整備事業	中世	中世遺構群
11	アナ エリ穴遺跡 (報告書作成)	通年	—	ほ場整備事業	縄文時代	集落

開発工事等による市内遺跡試掘確認調査一覧 (平成27年)

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積(m ²)	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
1	民間会社	島内	宅地造成	60	島内北中遺跡・島内南中遺跡	近接	なし			1月7-8日
2	民間会社	神林	老人ホーム	7.6	下神遺跡	近接	なし			1月23日
3	個人	岡田下岡田	集合住宅	4.4	岡田松岡遺跡	該当	あり	平安土器片	工事立会	2月4日
4	個人	神田	集合住宅	18	神田遺跡	該当	あり	平安土器片	現状保存	2月6日
5	民間会社	寿北	店舗	12	向原遺跡	該当	なし			2月18日
6	区画整理組合	両島ほか	土地区画整理	32	未確認		なし			2月25日
7	松本市	島立	市道改良	10.4	新村・島立条里的遺構	該当	なし		試掘継続	3月2-3日
8	個人	和田	個人住宅	4.4	神林川西遺跡	該当	なし			3月9日
9	民間会社	南松本	工場	25.26	出川西遺跡	該当	なし			3月10日
10	長野県	波田	畑地帯総合整備	60	唐沢遺跡	該当	あり	縄文土器片	試掘継続	3月11-16日
11	松本市	県	市道2084号改良	5.2	県町遺跡	該当	あり	弥生・古墳時代土器片、住居跡	記録保存	3月13日
12	民間会社	沢村	宅地造成	26.26	狐塚遺跡	該当	あり	平安土器片	工事立会	3月16・17日
13	個人	岡田松岡	戸建住宅	21.42	岡田松岡遺跡	該当	あり	縄文・平安土器片、穴	工事立会	3月18日
14	個人	入山辺	個人住宅	10.86	入山辺南方遺跡	該当	あり	縄文遺物、遺構	記録保存	3月31日
15	松本市	城西	外堀復元等代替地	6.82	松本城西馬出跡	該当	なし			5月7日
16	民間会社	波田	鉄塔建替	14.42	鳴音原遺跡	該当	あり	縄文土器片	散布地	5月11日
17	個人	原	集合住宅、個人住宅	14.4	下屋敷遺跡	該当	なし			5月26日
18	民間会社	笹賀	宅地造成	37.05	神戸遺跡	該当	なし			6月1日
19	個人	里山辺	集合住宅	9.2	下原遺跡	該当	あり	平安土器片	工事立会	6月9日
20	松本市	寿台	市営住宅	48.35	未確認		なし			6月11・12日
21	民間会社	芳野	土地利用検討	24.9	出川南遺跡	該当	あり	古墳時代包含層	計画未定	6月15・16日
22	個人	旭	集合住宅	22.32	松本城下町跡、岡の宮遺跡	該当	なし			6月29・30日
23	長野県	波田	交番	16.6	波田下島遺跡	近接	あり	縄文土器片		7月2日
24	民間会社	浅間温泉	集合住宅	40.5	新湯南裏遺跡	該当	あり	土器片、時期不明暗渠	記録保存	7月13・14日
25	民間会社	庄内	宅地造成	12.66	筑摩遺跡	近接	なし			7月21日
26	民間団体	岡田町	事務所	54.55	岡田西裏遺跡	該当	なし			7月27・28日

27	民間会社	村井町北	店舗	2.75	高畑遺跡	該当	なし			8月5日
28	民間会社	笹賀	宅地造成	5.4	上二子遺跡	近接	あり	時期不明遺構	現状保存	8月10日
29	個人	筑摩	高齢者向け住宅	5.2	筑摩遺跡	該当	あり	土器片	工事立会	8月11日
30	民間会社	清水	宅地造成	7.92	四ツ谷遺跡、県町遺跡	近接	なし			8月18日
31	民間会社	岡田松岡	老人福祉施設	67.1	岡田松岡遺跡	該当	あり	平安土器片、住居跡	工事立会	8月19・20日
32	民間会社	井川城	共同住宅	6.82	高宮遺跡	近接	なし			8月27日
33	松本市	丸の内	発電施設	18.6	松本城三の丸跡	該当	あり	近世陶器片、整地層	記録保存	8月30日-9月2日
34	民間会社	波田	宅地造成	23.4	未確認		なし			9月7日
35	民間会社	梓川倭	宅地造成	5.5	氷室東遺跡	近接	なし			9月14日
36	長野県	会田	砂防工事	33.9	長居原遺跡	該当	あり	平安土器片	工事立会	9月17日-11月26日
37	個人	神田	集合住宅	4	神田遺跡	該当	あり	弥生・古墳時代土器片	現状保存	9月17日
38	個人	里山辺	集合住宅	5.83	宮北遺跡	該当	あり	古墳時代土器片、時期不明遺構	記録保存	9月24日
39	松本市	寿北	市道改良	92.6	向原遺跡	該当	なし			9月28日・11月11日
40	民間会社	蟻ヶ崎台	集合住宅	39.06	峰ノ平遺跡	該当	なし			9月30日・10月1日
41	民間会社	波田	宅地造成	5.6	未確認		あり	時期不明土器片		10月6日
42	民間会社	並柳	宅地造成	11.52	平畑遺跡	近接	なし			10月8日
43	長野県	波田	畑地帯総合整備	36.79	平林遺跡	近接	あり	縄文土器片	試掘継続	10月13・14日
44	民間会社	今井	事務所・工場等	14.3	未確認		なし			10月14日
45	民間会社	里山辺	宅地造成	6.3	北小松遺跡	近接	なし			10月15日
46	学校法人	新村	校舎増築	25.82	新村遺跡	該当	あり	平安土器片	工事立会	10月26-28日
47	長野県	旭	校舎増築	5.2	岡の宮遺跡	近接	なし			11月2日
48	民間会社	水汲	集合住宅	21.15	水汲遺跡、水汲2号古墳	該当	なし			11月16日
49	個人	島立	個人住宅	9.15	新村・島立条里的遺構、北栗遺跡	該当	あり	縄文・平安土器片、平安遺構	記録保存	11月19・20日
50	民間会社	野溝木工	宅地造成	10.2	平田北遺跡	近接	なし			12月21日



出川南・西遺跡(出川)

高畑遺跡 第6次発掘調査

1 調査の概要

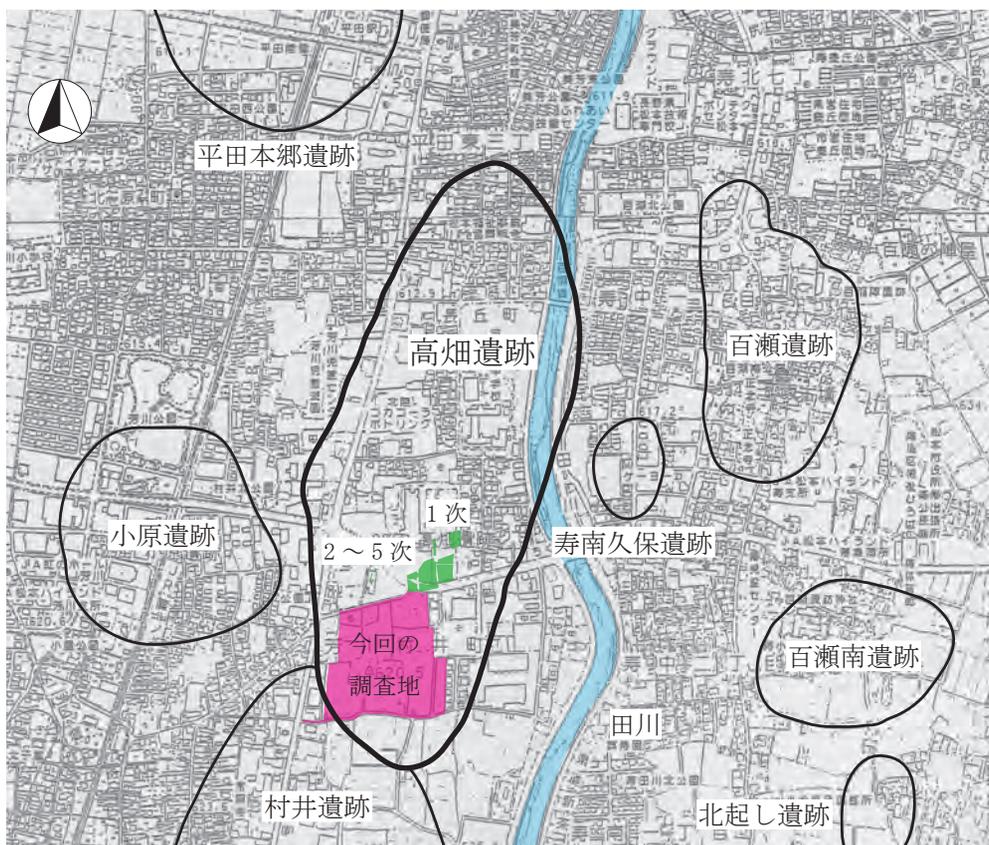
- (1) 遺跡の所在 松本市村井町南二丁目 918 ほか
- (2) 原因事業 松本市村井町南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間 平成 26 年 5 月 19 日～継続中
- (4) 調査面積 約 20,000 m²

2 遺跡の概要

高畑遺跡は松本市の南端、芳川地区の南東に位置する遺跡です。東には田川、西には奈良井川が流れ、両河川に挟まれた平地にあり、田川に接しています。

当遺跡が位置する芳川地区は、縄文～弥生時代は田川や奈良井川の氾濫の影響か、集落がほとんど見られませんが、古墳時代後期になると開発が始まり、奈良・平安時代に拡大していったと考えられます。この時期、芳川地区は筑摩郡良田郷つかまぐんよしだごうに属しており、東山道うまやの駅かがしのひとつである覚志の駅が置かれていたと推定されています。

当遺跡はこれまでの調査から、奈良・平安～鎌倉時代を中心とした遺跡であるということが分かってきました。特に鎌倉時代の遺構が多く見つかっています。遺物は第3次調査で「美濃国」と刻印された須恵器の杯が出土しており、信濃国が美濃国と交流していたことがうかがえます。



調査位置図

3 過去の調査

高畑遺跡は、昭和 61 年の最初の発掘調査から、これまでに 5 回の調査が行われてきました。第 1 次調査では縄文時代の土器棺墓が 1 基が見つかっています。平成 15 年から 17 年にかけて行われた第 2～5 次調査では、狭い範囲内から竪穴住居跡（竪穴状遺構を含む）35 軒が密集して見つかりました。その大半が鎌倉時代のものであり、この地点が鎌倉時代の中心地であったと考えられます。また、用水路と区画を兼ねていたと思われる溝も確認できました。

過去の調査成果一覧表

調査次	調査年	調査面積	時代	成果
1	昭和 61 年	約1,040㎡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡3軒、土坑30基、ピット101基、土器棺墓1基 土師器、須恵器、灰釉陶器、縄文土器、鎌、釘、石鏃、打製石斧ほか
2	平成 15 年	848㎡	奈良・平安時代 鎌倉時代	竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、土坑41基、ピット256基、溝9条 土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器、釘、元豊通宝（初鑄1078年）、弥生土器、打製石斧ほか
3	平成 15 年	1,478㎡	奈良・平安時代 鎌倉時代	竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構18軒、掘立柱建物跡3棟、土坑139基、ピット631基、溝6条 土師器、須恵器、土師質土器、須恵質陶器、石器、釘、刀子、銭貨ほか
4	平成 16・17年	1,286㎡	奈良・平安時代 鎌倉時代	竪穴住居跡6軒、竪穴状遺構8軒、土坑246基、ピット800基、溝9条 土師器、須恵器、灰釉陶器、東海系無釉陶器、青磁、白磁、釘、紡錘車、縄文土器、石器ほか
5	平成 17 年	30㎡	不明	土坑1基 なし



「美濃国」と刻印された須恵器の杯



復元住居（塩尻市 平出遺跡）

4 今回の調査成果

(1) 遺構 竪穴住居跡 : 165 軒

(奈良時代：5 軒、平安時代 140 軒、鎌倉時代 5 軒、時代不明 15 軒)

掘立柱建物跡 : 7 棟

炭焼窯 : 3 基

炉 : 1 基

土坑 : 約 1,000 基

溝 : 9 条

畝 : 16 本

(2) 遺物 縄文時代 : 石器（石鏃）

奈良・平安時代 : 土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、鉄器、富寿神宝

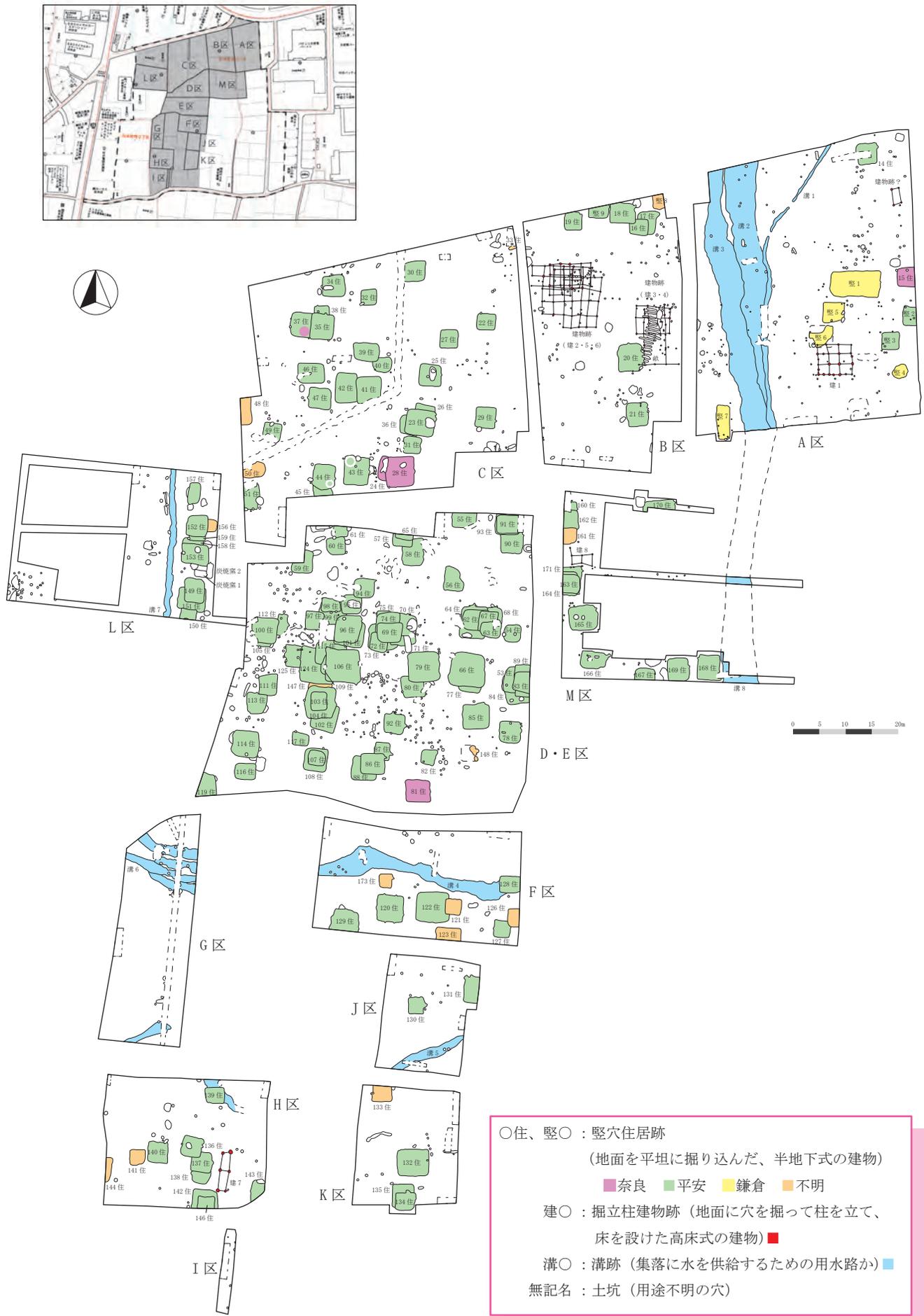
鎌倉時代 : 青磁、白磁、鉄器、銅銭



第 6 次調査 調査地遠景

ふじゆしんぼう

高畑遺跡 遺構配置図



(3) 奈良・平安時代（古代）の遺構

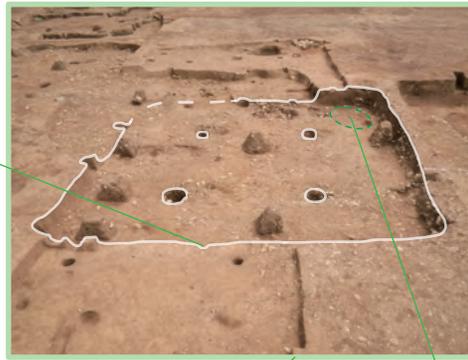
① D・E区



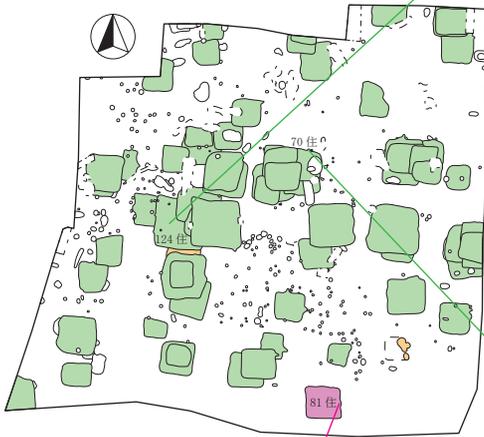
ふじゆしんぼう

124住出土の富寿神宝

柱を立てたと思われる穴から出土しました。立つように出土したことから、意図的に入れられた可能性があります。



124住 完掘状況（西から）
6.5m四方の大きな住居です。住居内からは柱穴が見つかりました。また、壁からも柱を立てたと思われる穴が確認できました。



81住 カマド周辺遺物（南西から）
須恵器の杯や杯蓋が多数出土しました。



124住出土の土器（北西から）
灰釉陶器の皿や黒色土器の杯などがまとまって出土しました。

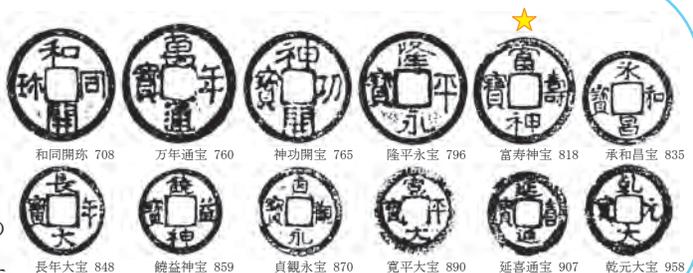


70住 カマド検出状況（南東から）
カマドを構築している石が良好な状態で残存しています。石や土は被熱により、赤く焼けています。

皇朝十二銭

708年に「和同開珎」が铸造されてから、958年までの250年間に国内において铸造された12種類の貨幣の総称を皇朝十二銭と呼んでいます。

高畑遺跡から出土した富寿神宝は5番目の貨幣で、初铸は818年（平安時代前期）です。



出典：『世界考古学事典 上』1979 平凡社

② L区



溝7 完掘状況 (南から)

南北に流れる溝を確認しました。溝よりも西側では住居が確認できないことから、区画を分けた溝の可能性がります。



炭焼窯1・2 完掘状況 (東から)

炭焼窯2 炭出土状況 (南東から)

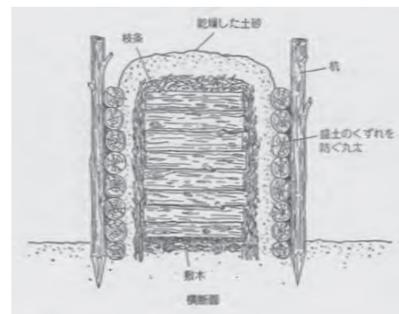
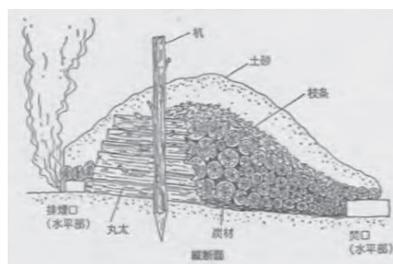
炭焼窯2 基が見つかりました。壁面は被熱により、赤く焼けています。床面からは炭が大量に出土しました。



149住 カマド周辺遺物 (南から)

立っている石はカマド構築材の石です。土師器の甕 (煮炊具) などが出土しています。

• 炭焼窯のイメージ •



出典：岸本定吉・杉浦銀治『日曜炭やき師入門』1980 総合科学出版



(4) 鎌倉時代（中世）の遺構

A区

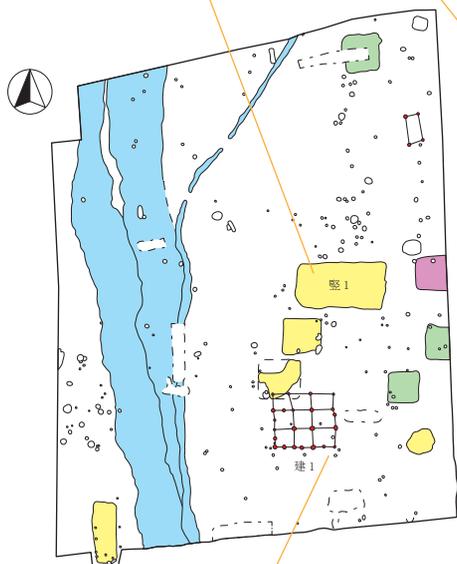


竪1 礎出土状況（西から）

5×9.9mと規模の大きい住居です。拳～人頭大の大量の石と焼土混じりの土が住居を埋めていました。住居を廃絶する際に意図的に行われた可能性があります。



竪1 から出土した青磁



竪1 から出土した銅銭

（左：こうそう 皇宋通宝 初鑄 1039 年
右：げんぼう 元豊通宝 初鑄 1078 年）



建1 完掘状況

3間×3間の建物の柱の跡を確認しました。直径20～40cm程の穴が方形に並んでいます。

5 まとめ

今回の調査では、165軒の竪穴住居跡が見つかりました。そのうち140軒が平安時代のものあり、当遺跡においてこの時代の遺構が多数確認できたのは初めてでした。今回の調査により、高畑遺跡は奈良・平安～鎌倉時代を通して途切れることなく集落が存在しており、住居跡の分布域が時代ごとに異なる可能性があることが分かってきました。古代は遺跡の南西で集落が栄え、D・E区がその中心地であり、中世は古代よりも北東で集落が栄え、第2～4次調査地点がその中心地であったと推定されます。また、炭焼窯が見つかったことから、集落の人々は使用する炭を集落内で生産していた可能性が考えられます。

まつもとじょうかまちあとほんまち
松本城下町跡本町

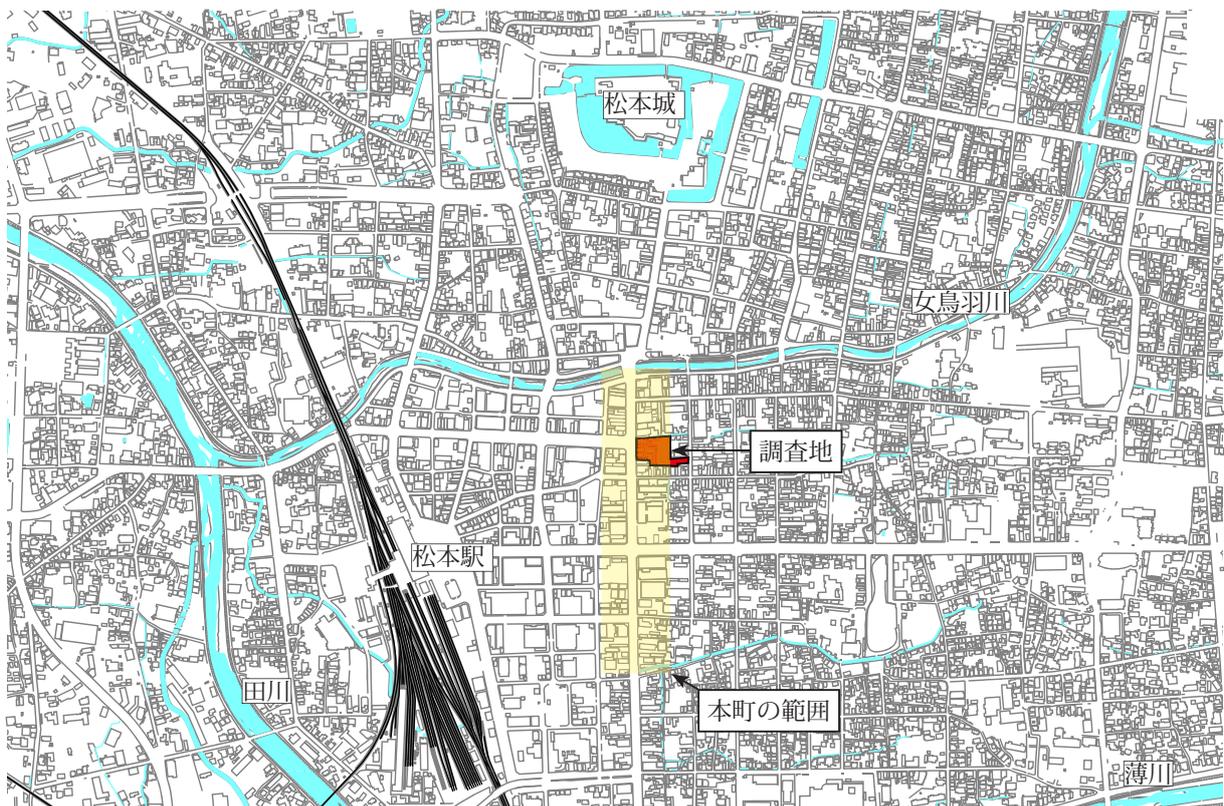
第8次発掘調査（中間報告）

1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在： 松本市中央2丁目
- (2) 調査の目的： 信濃毎日新聞松本本社社屋移転事業に伴う緊急発掘調査を実施し、記録保存を図るもの
- (3) 調査期間： 平成27年8月6日～平成28年7月末（予定）
- (4) 対象面積： 約3,000平方メートル
- (5) 調査面積： 約1,200平方メートル

2 遺跡の概要

本調査地が位置する本町は、松本城下町の町人地です。松本城下町は、善光寺街道沿いに造られた^{ほんまち なかまち ひがしまち おやまち}本町・中町・東町のいわゆる親町3町を軸に形成され、さらにその親町から10町の^{えだまち}枝町が伸びています。このうち本町は、内外の流通拠点として様々な品物を扱う問屋などの大店が集中し、商人町の様相を呈していました。本町の起源については、享保10年（1725）に編纂された^{しんぶとうき}『信府統記』に、「前略・・・天正13年（1585）より今の宿城地割して、同15年までに、市辻・泥町辺の町屋残らず本町へ引移し・・・後略」と記載されており、16世紀末の松本城^{ふかしじょう}以前の深志城時代に小笠原貞慶^{おがさわらさだよし}によって本町の町割りが行われたものと推定できます。



調査地の位置図



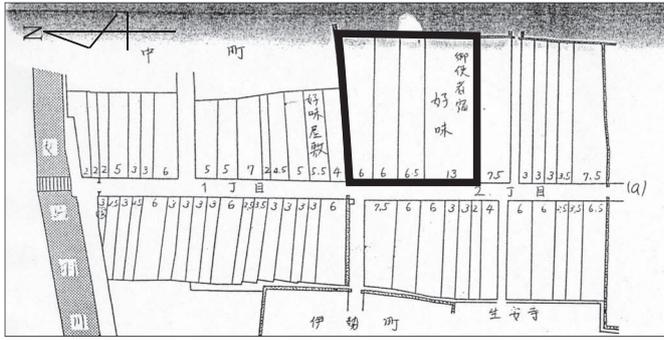
4 調査地点について

これまで本町では7か所の発掘調査を実施してきました。城下町では、火災や水害などで一帯の建物が被害を受ける度に整地をし、結果としてその土地がかさ上げされました。調査により、戦国時代末から近代までに320cmの盛り土（10回以上の整地）が行われてきたことがわかっています。

今回の調査地については、古絵図をみると、調査地北半に数件の町屋、南半に間口の広い今井家（その前は今橋家）の屋敷兼御使者宿があったことがわかります。

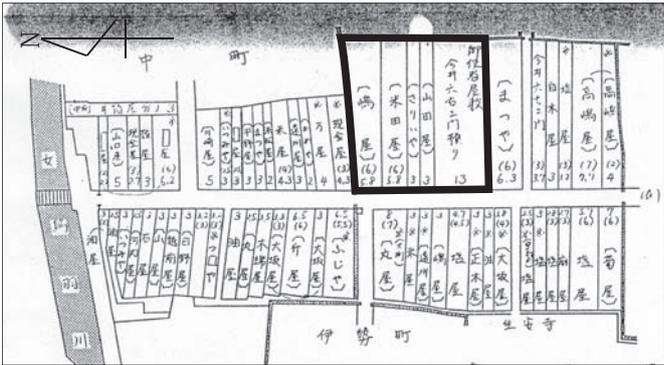
今井家は、町役人の最高位の一人に任命され、町役人である倉科家とともに城下町の統制にあたりました。酒庄屋、穀物商、貸家業など手広く商売をするかたわら、城への客や公用で来た者を接待し、御用飛脚などを宿泊させる「御使者宿」という藩の施設おししゃやどを運営していました。

御使者宿は、身分の高い人が宿泊する場合にも差支えないだけの立派なものであり、城の細工師によってつくられた内部は、まるで御殿と同じ作りになっていたと言われています。当初、親町3町が当番制で御使者宿を運営していましたが、寛文7年（1667）以降は常設の施設が設けられました。延宝7年（1673）までの6年間を今橋家が運営し、その後は、今井家が明治初年まで一切の責任を負っていくこととなります。また、天明3年（1784）には、御使者宿が調査地のある旧本町2丁目から旧本町4丁目（今井家所有の土地・現深志2丁目）に移転されました。



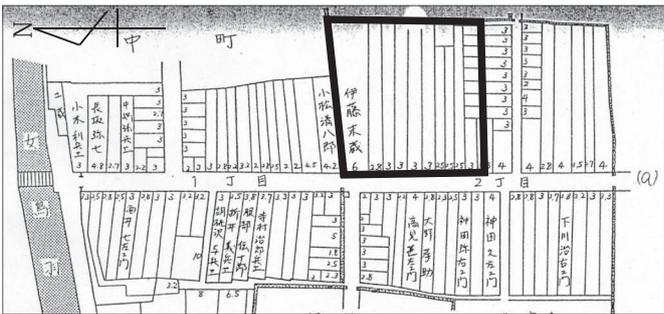
寛文9年（1669）の調査地の推定位置

調査地の推定位置南部に間口13間の御使者宿が見えます。運営者は（今橋）好味です。



享保9年（1724）の調査地の推定位置

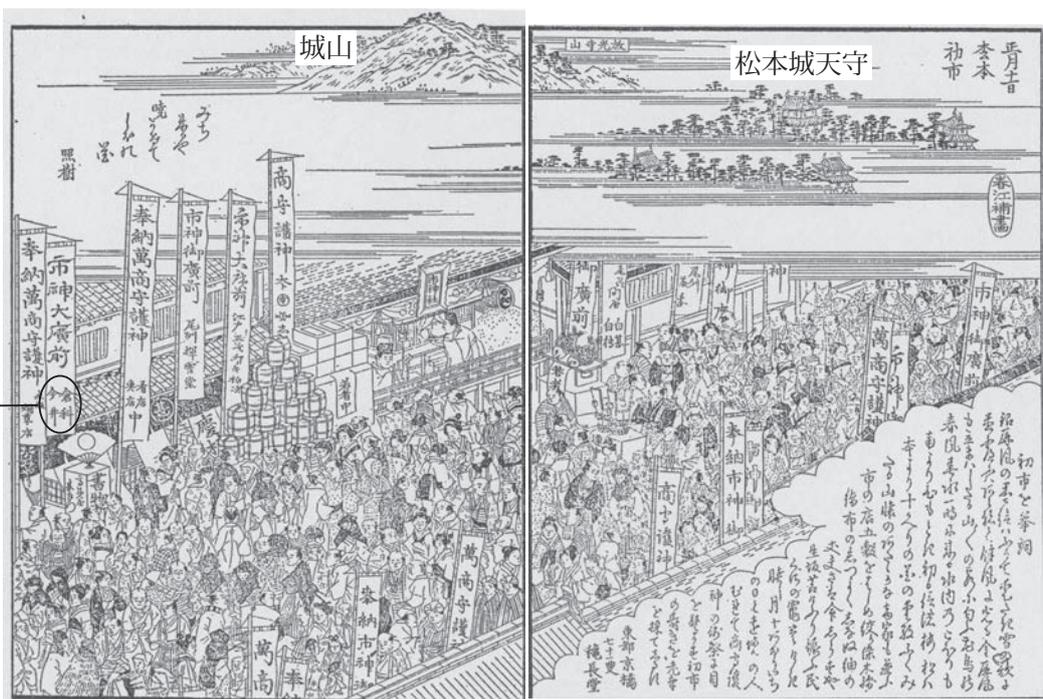
御使者宿の運営者が今井六右衛門に変わります。北側には、嶋屋や米田屋などの間屋が連なります。



幕末期（1845年頃）の調査地の推定位置

御使者宿がなくなり（天明3年（1783）に旧本町4丁目に移動）、間口の狭い町屋が連なります。

中藤淳 1986 「近世松本城下町における変遷過程」より引用（一部加筆）



「倉科・今井」町役人の最高権威者である両家の姓が幟に書かれています。

『善光寺道名所図会』（嘉永2年（1849）刊行）に見る旧本町2丁目での初市（貽市）の様子

5 調査成果

(1) 第1検出面（18世紀中～19世紀初の生活面）

① 主な遺構

建物跡（礎石・石列・^{どうぎ}桐木・グリ石）、敷地境跡（石垣・石列・^{どうぎ}桐木・グリ石・杭列）、埋設桶、ごみ穴、土坑、ピットなど

② 主な遺物

- 陶磁器：^{みずさし}水指（^{いがやき}伊賀焼風）、^{みのやき}美濃焼の茶道具や雑器、^{ひぜんやき}肥前焼の食器など
- 土器：^{かわらけ}カワラケ、^{とうめいぐ}灯明具、^{ほうろくなべ}焙烙鍋など ・ 金属製品：^{かんのえい}銅銭（^{かんえいつうほう}寛永通宝）^{きせる}煙管など
- 木製品：^{げた}下駄、^{おけ}桶、^{はし}箸、^{くさび}楔、^{しやく}荷札（^{すみ}墨書有り）など
- その他：^{いし}砥石、^{いし}硯、^{おんじやく}温石（^{かいろ}懐炉として使用した石）、^{いし}基石、^{ほね}骨、^{かい}貝殻、^{きの}木の実など



1面全景（南東から）です。 ※赤線 = 建物跡



粘土と石で組まれたカマド跡。
麴作り（酒造など）に使用したものでしょうか。



桐木がよく残る建物の基礎が見つかりました。



御使者宿の推定範囲で出土した茶道具（水指）。

第1検出面では、屋敷の境と建物の跡が比較的明瞭にわかりました。各屋敷によって、塀や建物の基礎構造が異なることが確認できました。建物基礎の桐木（軟弱な地盤などでの基礎造りに使われる太い木材）は、サイズに統一性がなく、他で使用した建築材を再利用したものと考えられます。

今回見つかった石組みのカマドは家庭で使うには大き過ぎるため、何らかの生産用と考えられます。他県で発見された麴作り用のカマドに似ているので、酒造などに使われる麴竈の可能性がります。

(2) 第2検出面 (17世紀中～18世紀初の生活面 / 地面)

① 主な遺構

敷地境跡 (石列・グリ石) 水道施設 (竹管・木樋)、埋設桶、ごみ穴、カマド、土坑、ピットなど

② 主な遺物

- 陶磁器：美濃焼の茶道具や雑器、肥前焼の食器、京焼の仏具など
- 金属製品：銅銭 (寛永通宝) 煙管など
- 木製品：下駄、桶、箸、楔、荷札 (墨書有り)、膳など
- その他：砥石、碁石、骨、貝殻、木の実など



2面全景 (東から) です。



御使者宿の推定場所で見つかった水道管 (竹管)。



ごみ穴から木製品がたくさん出土しました。

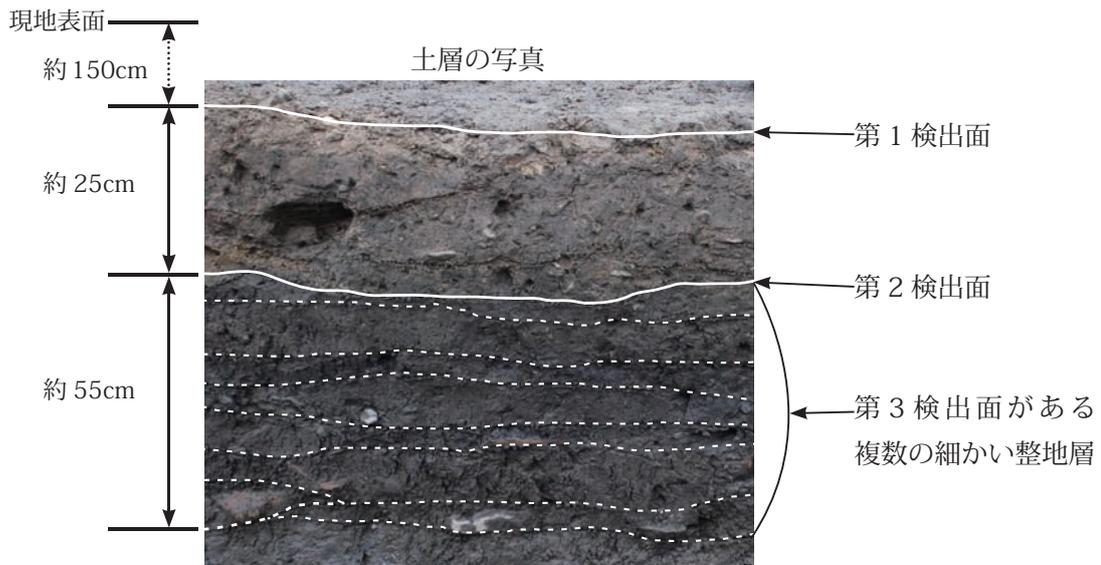


地面を掘り窪めて作ったカマドの跡です。

第2検出面では、建物跡は確認できませんでしたが、水道施設やごみ穴等が見つかりました。松本城下町では、17世紀後半に親町を中心に、各屋敷に配水する水道管が整備され始めたと考えられています。それ以前は、地下水脈まで直接掘り込んだ溜め井戸まで水を汲んでいました。今回、発見した水道管は、時期的に城下町の中でも初期の頃ものだと思います。調査では、竹管と木樋の2種類の水道管が見つかりました。

御使者宿があったと推定される場所から、通常、町人地ではみることができない様な茶道具や高級食材などの遺物が出土しました。はっきりとした御使者宿にかかる遺構は確認できませんでしたが、こういった遺物から御使者宿の存在が窺えます。

(3) 第3検出面（17世紀初頭の整地土 / 造成土）



① 主な遺構

焚火等の跡と考えられる灰や炭が散った範囲

② 主な遺物

- 陶磁器：美濃焼（織部焼の皿や向付、志野焼の皿や向付、黄瀬戸の鉢など）、輸入磁器（青花、赤絵）など
- 金属製品：宋銭、煙管、小柄の鞘など、
- 木製品：下駄、桶など



白線で囲われた中には、灰や炭が集中していました。焚火の跡でしょうか。



灰や炭と一緒に土鍋の底が出土しました。



整地土の中から出土した織部焼の皿です。



整地土の中に出土した輸入品と思われる赤絵の磁器です。

第3検出面は、生活面ではなく、生活面を造る段階の整地層です。数 cm の厚さで異なる質の土を幾重にも積み重ね、しっかりとした整地をしていることがわかりました。整地土の中から、織部焼の皿・向付や灯明皿として使ったと思われる志野焼の皿、中国製磁器の青花（染付）・赤絵の欠片が出土しました。町人屋敷地から出土すること自体珍しい遺物が、多量に出土したことは、いったいどういうことなのでしょう。また、焚火をしたであろう痕跡が複数確認できました。今後、全国で似たような事例がないか調べる必要があります。

6 中間まとめ

(1) 中間成果について

松本城下町跡において、今までこれほど広い面積を調査したことはないため、今回の調査は新たな発見が期待ができます。これまでに、屋敷と屋敷の境がどうなっているのかが明瞭に確認できました。また、屋敷毎に整地を行っており、地面の高さに若干の差があることもわかりました。これは発掘調査自体を困難にさせる原因にもなっています。

今回の調査地が、親町の中でも中樞町の本町であるので、多くの目を引く出土遺物があります。また、御使者宿の推定場所の調査では、御使者宿と断定できるような遺構は見つかりませんでした。しかし、通常町人地では見られない高級品の出土遺物が御使者宿に結び付けられるかもしれません。

(2) 今後の調査について

第4検出面では、城下町成立当初の様子が発掘調査により確認できると期待されます。また、第4検出面より下層の調査では、城下町成立前、本町周辺がどのようになっていたのかを知ることができます。戦国時代以前の中世集落や、さらに前の古代集落があるかもしれません。



平成 28 年 1 月 18 日の大雪に襲われた発掘現場の様子

松本城三の丸跡土居尻第6次調査

1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市城西2丁目2-33
- (2) 調査の目的 松本城南・西外堀復元事業及び内環状北線整備事業の代替予定地の開発に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間 平成27年4月22日～10月2日
- (4) 調査面積 平面積592㎡（Ⅰ～Ⅲ検のべ調査面積1,044㎡）

2 調査地の概要

(1) 調査地の位置

松本城の城郭部分は、本丸・二の丸・三の丸で構成され、それぞれの郭を3重の堀（内堀・外堀・総堀）が囲んでいます。調査地は、三の丸の西端に位置しています。三の丸には、家老をはじめとする藩士の屋敷があり、東・西・北には馬出し・門が設けられ、南には大手門枡形門が設けられていました。



調査地の位置

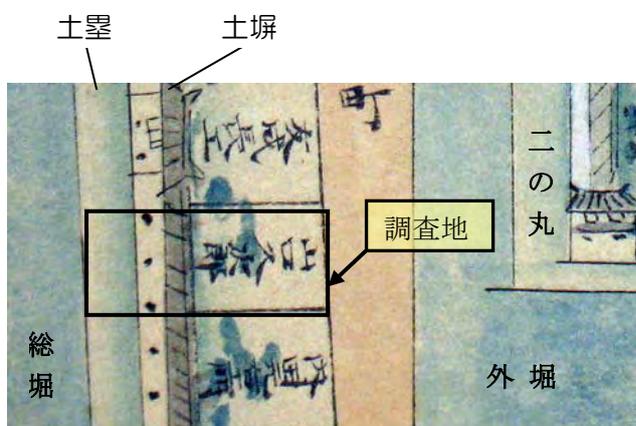
(2) 絵図から得られる情報 ⇒調査地は、松本城の城郭と家臣の武家屋敷という2つの要素

ア 調査地西半部は、総堀と総堀土塁 ⇒城郭の防御施設

調査地西半部は、三の丸を囲む総堀と堀の内側にあった土塁にあたります。絵図をみると、土塁の上には土塀があり、敵を迎え撃つために狭間の表現がみられます。

イ 調査地東半部は武家屋敷 ⇒家臣の屋敷地

幕末期には、戸田家家臣の「山口久次郎」の屋敷がありました。山口氏は文化5年（1808）に80石で調査地の屋敷を拝領しています。文政6年（1823）には、20石加増されて100石となった後、小姓・近習・御広間番・郡奉行・御学館目付などの役職を代々勤めました。



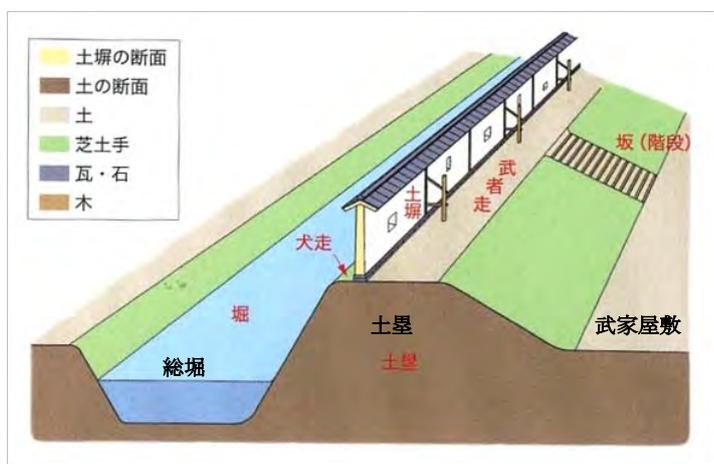
維新前松本藩士族屋敷割図より

享保十三年秋改松本城下絵図（1728）より

山口氏の屋敷である裏付け資料が出土



底裏に墨書きされた
餌猪口（鳥の餌入れ）



調査地西半部の模式図

3 調査の成果

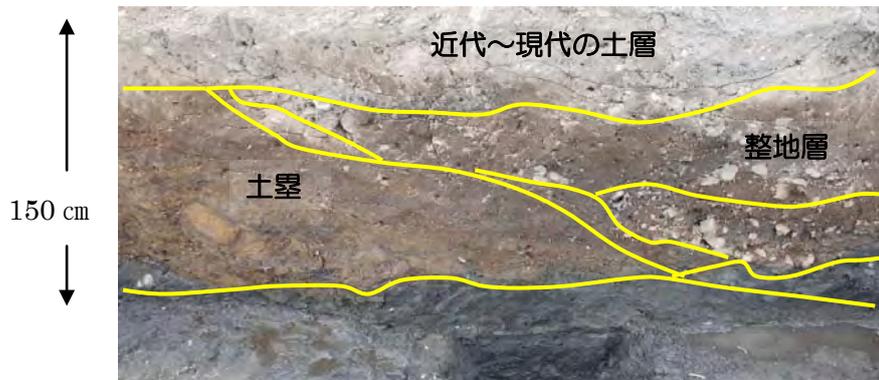
(1) 調査地西半部

ア 土塁の盛土は、ほとんど削平されていましたが、基盤となる土層が残っていたため、土塁幅は約16mであることがわかりました。

イ 土塁下部に人為的な整地層を確認しました。土塁構築以前（＝築城期以前）の整地にあたりますが、遺物は木片のみで陶磁器などが出土しなかったため、整地時期は不明です。



土塁下部の整地面



武家屋敷側の土塁裾部の土層

(2) 調査地東半部について

ア 第Ⅰ面の19世紀の生活面では、火災で焼失した武家屋敷跡を確認しました。

イ 第Ⅱ面では、東端部に建物跡（掘立柱建物）が確認され、中央から西側は窪地を埋めた造成面を確認しました。窪地は、壁面の土層観察から、大きく2度にわたって埋め立て造成が行われていたことがわかりました。

ウ 第2期の造成土中からは、多量の遺物が出土しました。特に火災被災遺物も多量に出土したことは特筆されます。出土した資料には、茶器（織部四方鉢・総織部茶碗・志野向付など）、木製品（螺鈿細工の調度品の一部・将棋駒・鋏など）のほか、天正11年（1583）の年号が記された板材が出土しました。遺物の年代幅は、16世紀末から18世紀前半です。瀬戸産の鉄釉灰釉掛け分け茶碗・立沢瀉紋の軒丸瓦（水野氏家紋）などが最も新しい年代を表すものです。

水野氏の松本藩主時期：寛永19年～享保10年（1642～1725）

I 検出面（18世紀末～19世紀初頭）

発見された遺構：建物跡、池状遺構、ゴミ穴、水道遺構、溝状遺構、火災後の廃棄土坑
 出土遺物：陶磁器（肥前産、瀬戸・美濃産、京都産ほか）、木製品（下駄・曲物ほか）、金属製品（キセル、小柄ほか）



第II 検出面（18世紀代）

発見された遺構：建物跡（掘立柱建物）、土坑、造成の痕跡
 出土した遺物：陶磁器等（建物跡からは出土遺物なし）



大規模造成跡（第Ⅱ検出面下層） 17世紀初頭～18世紀初頭



茶器・織部四方鉢



螺鈿（らでん）
細工を施した
調度品
（着物掛）か



将棋の駒（歩兵）



軒丸瓦（立沢瀧・水野氏家紋）



人形の顔（木製）



第Ⅲ面で発見された造成範囲

造成土中から出土した遺物：陶磁器（16世紀末～18世紀前半代のもので、高級茶器などが含まれる）、木製品（漆碗、下駄、曲物、鋏、螺鈿細工のある調度品、将棋の駒など）、その他（基石、煙管、小柄など）



建物跡

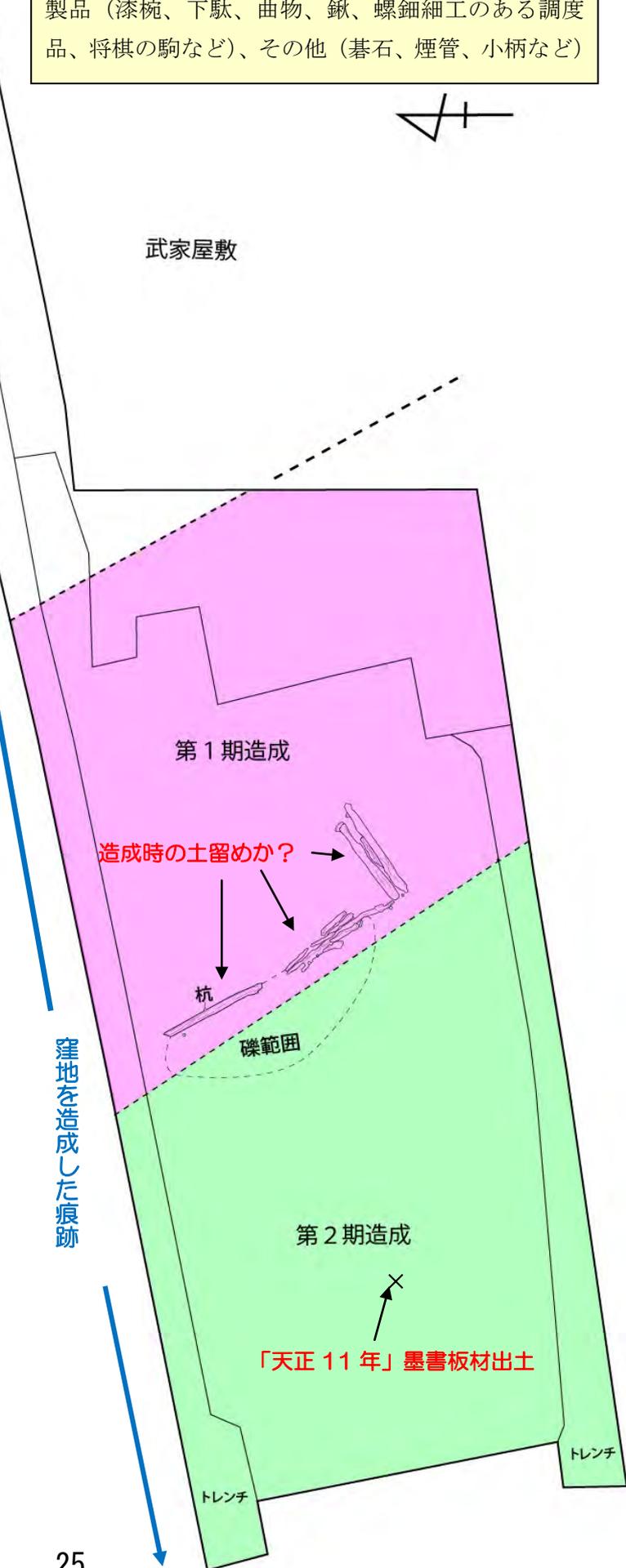
整地層（生活面）



土留め部分の空中写真



窪地の掘り下げ作業風景



(3) 天正 11 年（1583）の年号が墨書きされた板材について



(天) 正拾一年 (癸) 未六月四日

赤外線写真

なぜ「松本」？

- ①待つ（松）こ
と本懐を遂げた
- ②分家（伊那松尾）に対する

天正 11 年とは ～動乱の翌年～

[天正 10 年（1582）] (参考：『信府統記』ほか)

- 2 月 木曾義昌が武田勝頼に背信、織田へ臣従
- 3 月 深志城代馬場美濃守が織田信忠軍に降伏
武田勝頼が織田信忠軍に敗北し、自刃
～武田氏滅亡～

織田信長が安筑二郡を木曾義昌に与える

- 6 月 **本能寺の変で織田信長が自刃**
- 7 月 小笠原貞種が上杉景勝の援助をうけ
深志城から木曾義昌を追放
小笠原貞慶が徳川家康の援助をうけ
深志城から貞種を越後に追放
深志の名を松本に改める

～以後、反小笠原勢力への一掃に努める～

[天正 11 年（1583）]

- 2 月～3 月 貞慶、安筑地域の有力者の反乱を制圧
所領安堵に奔走

- 8 月 貞慶、日岐氏を服従させ、仁科氏と対立

[天正 12 年（1584）]

- 3 月 貞慶、麻績・青柳城を攻略

[天正 13 年（1585）]

- 貞慶、市辻・泥町の町屋を女鳥羽川の南に移し、
本町を形成（～15 年まで城下町整備に努める）

この板材は、窪地を埋めた造成土中から出土しました。板材の用途や廃棄理由などははっきりしません。

火災被災遺物も一緒に出土していることから、火災後に廃棄されたとも考えられます。

今後、一緒に出土した遺物の様相も含め、検討していく必要があります。

4 調査のまとめ

- (1) 第 I 面の 19 世紀の生活面では、火災で焼失した武家屋敷を確認しました。絵図の記載と出土した墨書資料から、藩士・山口家の武家屋敷と考えられます。
- (2) 築城期から 18 世紀前半まで規模の大きい窪地が存在していました。18 世紀前半以降に大きく 2 度にわたる造成が行われ、武家屋敷がつくられました。このことは、三の丸内の整備が段階的に行われていった可能性を示唆しており、今後の周辺の調査とあわせて検討が必要です。
- (3) 造成土中から天正 11 年（1583）の年号が記載された墨書板材が出土しました。数少ない天守築城前の年号が記された貴重な資料が得られました。

「小笠原氏城館群」の調査—井川城から林城へ—

1 「小笠原氏城館群」とは？

松本城につながる室町～戦国時代の地域領主小笠原氏の本拠の変遷を物語る城館跡群

井川城跡……………室町時代における信濃守護小笠原氏の居館推定地

林城跡（大城・小城）……………戦国時代における小笠原氏の本拠（居館と山城）

2 「井河ノ城」—室町時代の小笠原氏居館はどこまでわかったか？

(1) 古文書に見える井川城の姿……………「井河堀」（『諏訪御符礼之古書』）と「井河ノ城」（『信府統記』）

(2) 発掘結果からわかった井川城の姿……………100 × 70m の長方形土壇、堀・水路、かわらけ、威信財…

(3) 調査結果は何を語るか？……………15 世紀前半に隆盛した武士の館→小笠原氏の居館跡か？

3 林城—戦国時代の小笠原氏本拠の姿を解き明かす

(1) 古文書に見える林城……………「大城」（『高白齋記』）、「小笠原家の要害」（『信府統記』）

(2) 林大城の構造……………4 つの空間（主体部と削平地群）、堀切・竪堀と土塁と無数の壁で防御か？

(3) 林小城の構造……………主体部と削平地群、畝状竪堀など主体部の発達した縄張、なだらかな尾根の城

(4) 大城・小城と大嵩崎谷……………現在の姿は廃城後、天正 10 年～の大改修？、大嵩崎谷と大城・小城

(5) 林山腰遺跡の発掘成果が語るもの……………大嵩崎谷に眠る大規模な平場群、礎石建物、15 世紀末に隆盛

(6) 山城と山麓の館・町・寺が織りなす歴史的景観……………戦国時代における小笠原氏の拠点

4 井川から林へ—考古学からみた小笠原氏本拠の動き

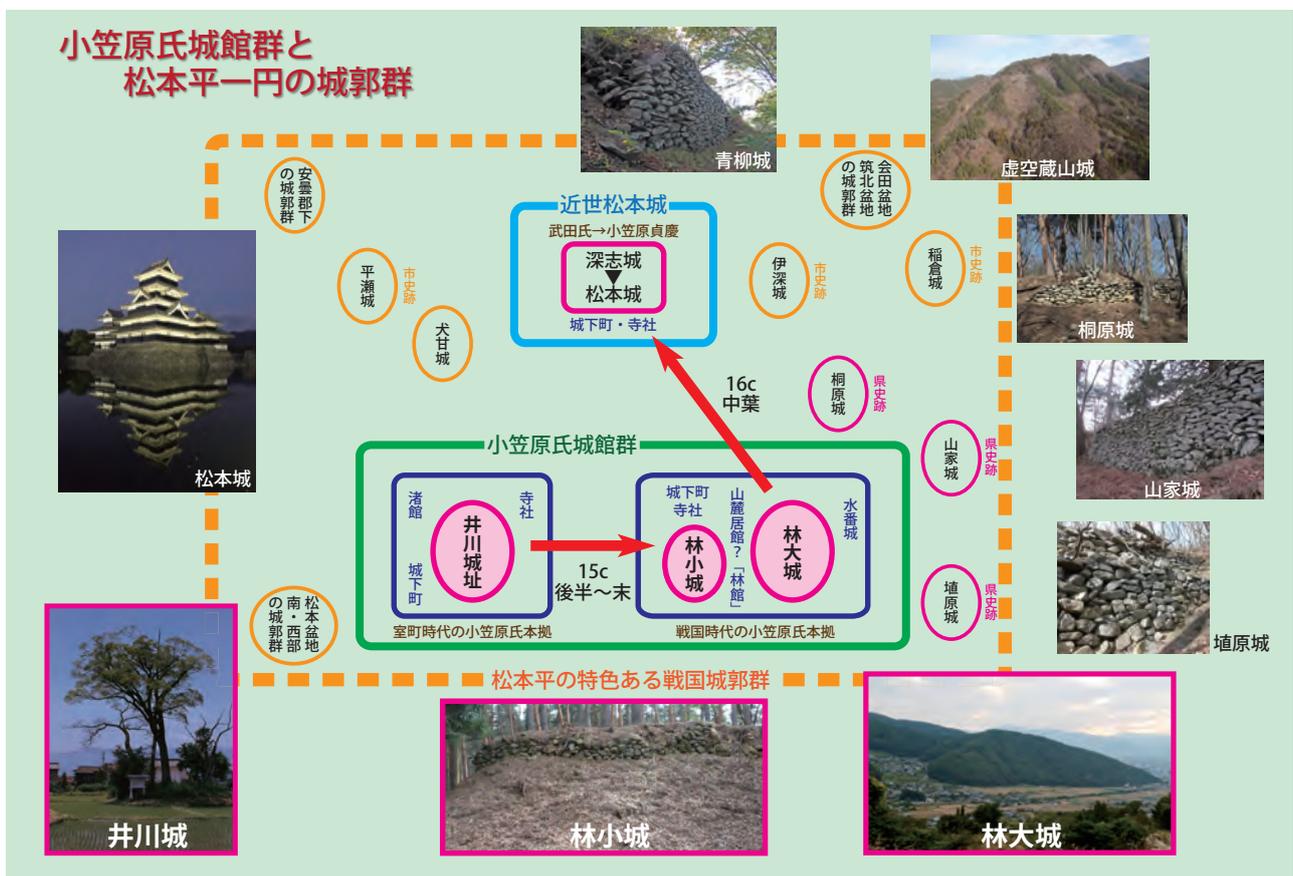
(1) 井川城跡と林山腰遺跡の考古学的な年代

(2) 井川から林への本拠移転時期……………15 世紀後半の転機、平地の城館から山城へ、列島規模のうねり

5 松本城のプレヒストリーを語る「小笠原氏城館群」を未来へ受け継ぐ

・守護家から戦国領主を経て近世大名へ……………激動の時代を生き抜いた武家の足跡を物語る歴史資料群

・国史跡として保存・活用をめざして……………松本城と並ぶ歴史資産として後世に受け継ぐ



「諏訪御符礼之古書」 応仁二年（一四六八）

応仁二年戊子花会

（中略）

一磯並、深志坂西兵部少輔光雅、御符礼一貫八百文、使弥五郎、去年七月十五日ヨリ小笠原兵庫助政貞伊賀良ヨリ符中江乱入、同小笠原信濃守宗清ヲ被責候、深志坂西兵部少輔ハ貞政力属手ニ、信濃守深志御頭当、御榊立候在所江指寄、御榊ヲ切折候、兵者若字征矢野源四郎 其太刀打之場ニテ右手ヲ被切折、兩人共死去候、外見外聞ノ輩、諸人消肝卷舌候、此日ヨリ信濃守家風者ハ、殊当国之事ハ当社ヲ専ト信シ申、可致弓矢之処、如此神慮ニ背給上者、弥行末憑敷不存、彼切折申候御榊ニ神はいナトヲソヘ、神長井河堀ヘ捨マキ候、依此神罰、宗清ハ次之丑年狂乱候テ、依御榊切折候咎忽蒙御罰由口ハシリ候テ、同十一月四日ニ死去候、稀代之不思議也、又西牧信濃守満忠御頭之神使ニ当ナガラ、色ヲ着候テ、宗清葬送之供ヲ被仕候、忽殺死候テ、三日ニ生返候、是又奇特ナル御事、

『信府統記』 享保九年（一七二四）

「信州松本城記録」

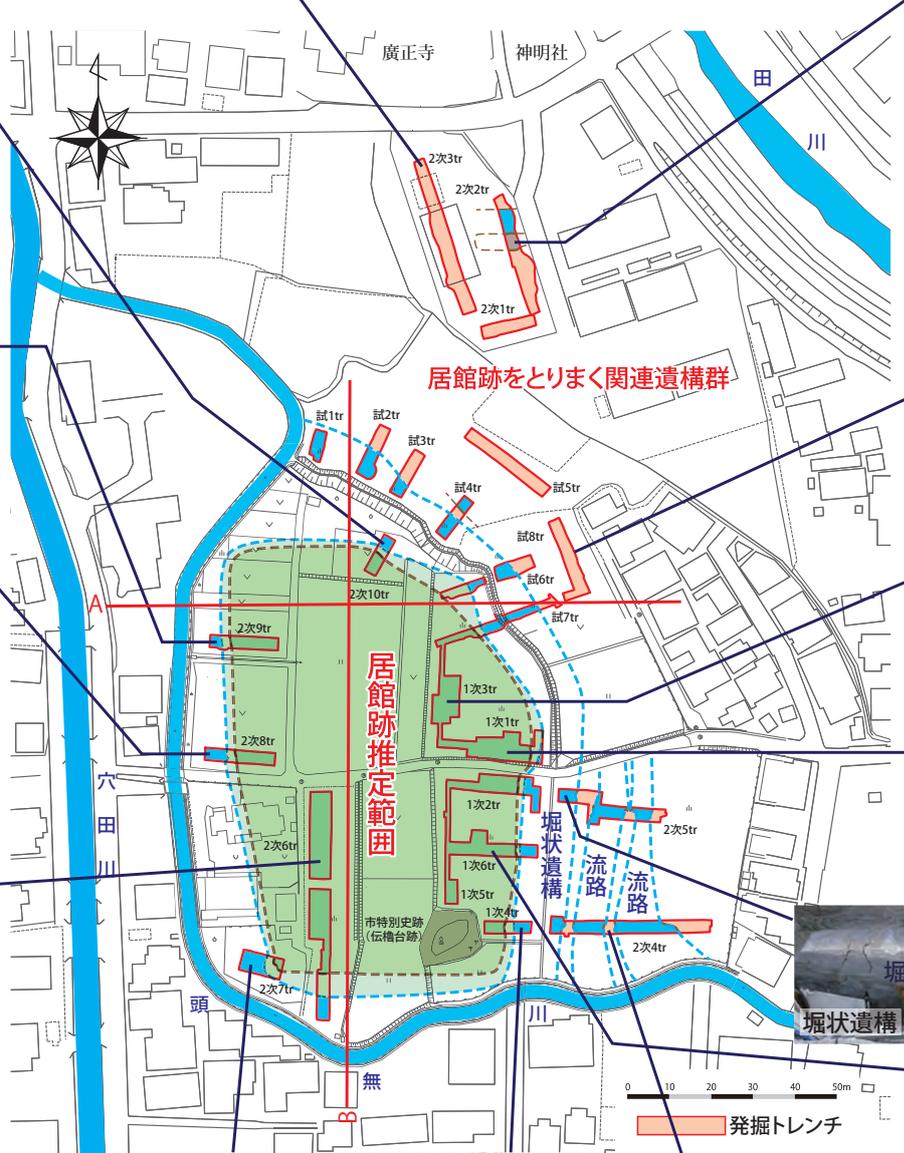
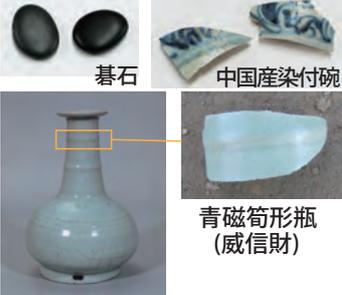
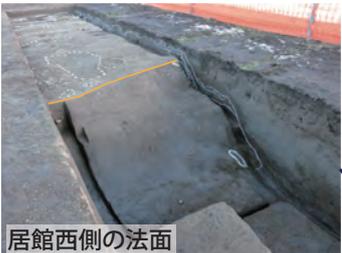
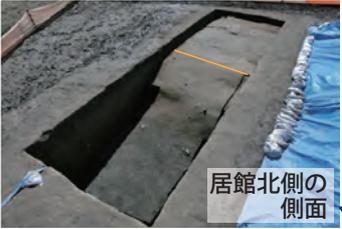
○當郡ハ中古小笠原氏ノ領地タリシ故彼幕下ノ氏族タル人所々分チ領シテ或ハ古城ノ跡ニ寄り又ハ新ニ城ヲ築キ屋鋪ヲ構テ住居ス其中ニ島立右近 本氏廣野 ト云フ人始ハ庄内ノ地小島村井河ノ城に住シ後城ヲ今ノ松本ノ地ニ移セリ此井河ノ城ハ四方ニ流アリテ井ノ字ノ如クナル故ニ井

河ノ城ト云フ古ハ誰人ノ築ケルト云フコトヲ知ラス久シク小笠原家ニテ持來レル處城主中絶シテ城郭廢壞セリ寛正六年乙酉再ヒ之ヲ修覆シテ改メ名ツケテ深志城ト云フ此邊ハ小笠原數代ノ領地ナルカ故ニ文龜年中迄林ノ城主ヨリ兼子持テリ島立右近モ小笠原ノ一族タリシトナリ

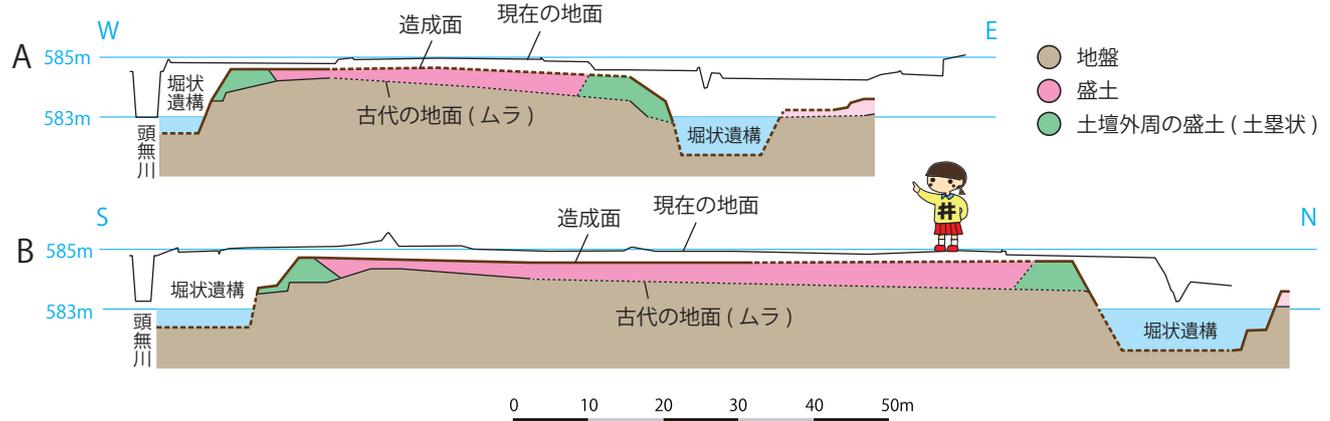
「松本領古城記」

○小島村古城地 井河ノ城と稱フ沼城ナリ 本城地形少シ高シ廣サ東西四十間南北四十六七間東ノ方ニ虎口ノ跡一所アリ其涯今ハ荒地ニテ草生シ水ツキナリ本城ノ内皆畑ニナリタリ土手形矢倉臺ノ跡ト見ユル所塚ノ如クナリテアリ四方沼ニテ流モアリ其内ニ取分ケ深キ所ヲ釜ト云フ辰巳ノ隅ニ黒田釜ト云フアリ其所ヘ南東ヨリ流ルヽヲ鑑取リト云傳フ所由アルニヤ惣テ此地ノ流レ水上アル川ニアラス皆近邊ノ出水ナリ西ノ方ノ川 是ヲデ川ト云フ出水故號セルモノナリヘシ 幅六七間 足入故渡ルコトナラス 此川ト本城ノ間南ニテハ七八間ノ所モアリ北ニテハ七八間ハカリアル所モアリ皆田ニ成セリ川ノ向フ西ノ方ニ鎌田村アリ是ヨリ西南五六町ハカリニ征矢野村アリ此北ノ方マテ三ノ曲輪ニテ今ニ堀ノ跡アリ今ノ鎌田村ハ曲輪ノ内ナリシト云フ此城邊ノ水皆北ヘ流レテ薄川田川ヘ落ル本城ノ地形モ南高シ凡テ此近所ノ田ハ深田ノ足入多シ小笠原家ヨリ久シク在城アリテ林ノ館ヘ移ラレシ後マテモ兼持テリ永正元年島立右近城ヲ松本ノ地ヘ引移セルコト委ク城主記ニ載ス島立モ小笠原ノ支族ナリ其後ハ坂西氏何某領セリ小島村ヨリ戊亥ノ方ニ町二十間アリ上小島村ハ松本城ヨリ午ノ方八町三十間アリ

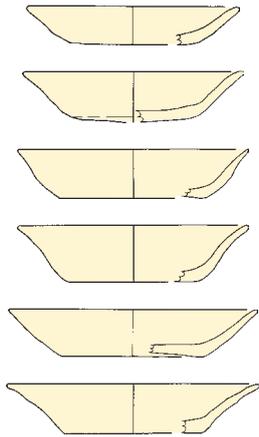
井川城跡 全体図



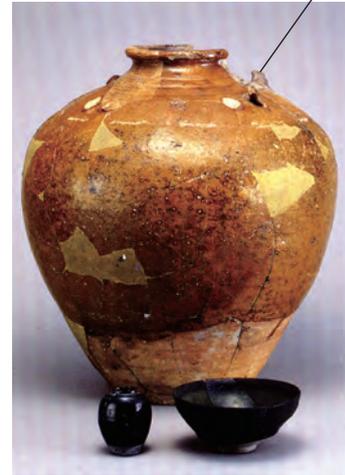
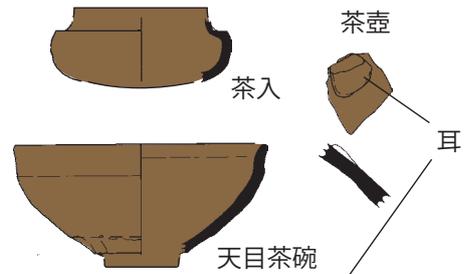
井川城跡の断面構造



かわらけ (宴会や日常生活の食器・灯明具)



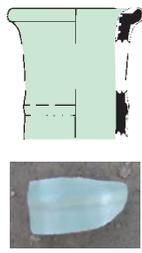
茶道具



一乗谷朝倉氏遺跡

威信財

青磁筍形瓶 (12～13世紀の中国製)



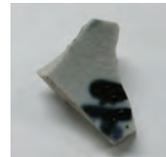
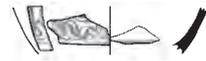
座敷飾りの様子 (上：慕帰絵詞、下：酒飯論絵巻)

中国産の磁器

青花 (染付) 碗



青磁碗



娯楽

青磁の香炉



香道の道具 (一乗谷朝倉氏遺跡)



基石

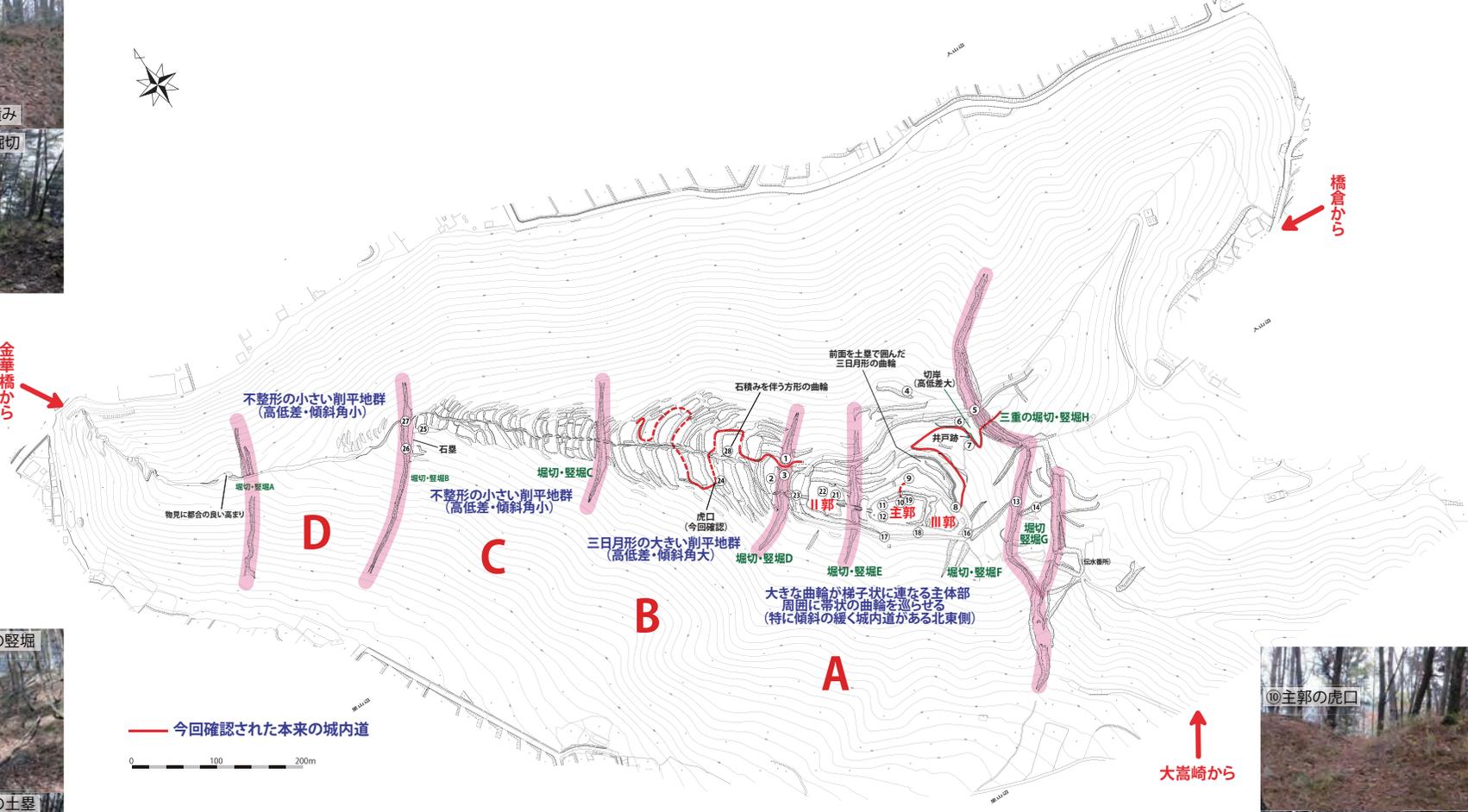
室町～戦国時代の武士の館一方形館



一乗谷朝倉氏遺跡 (朝倉義景館 福井県)

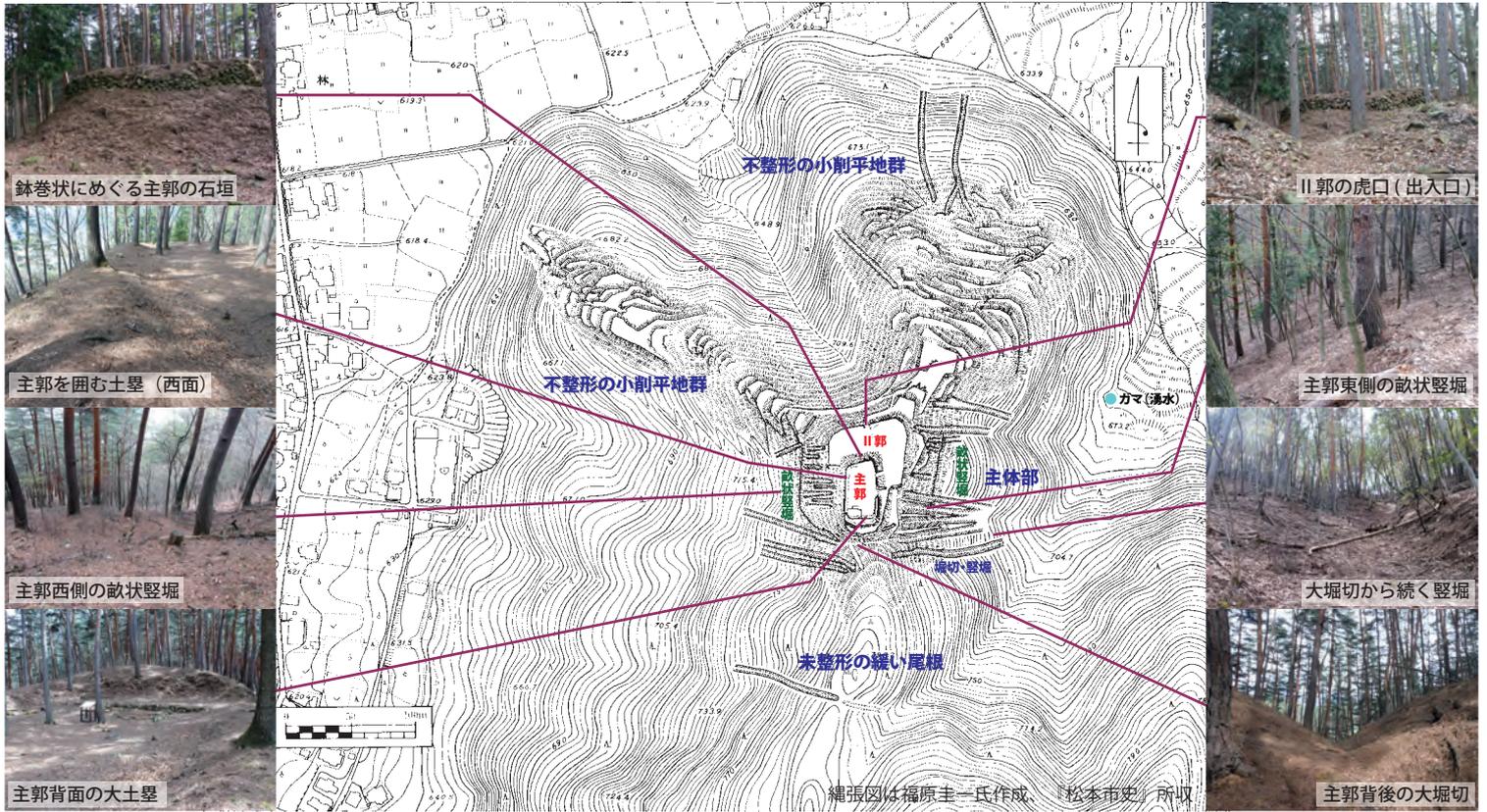


江馬氏館 (岐阜県)



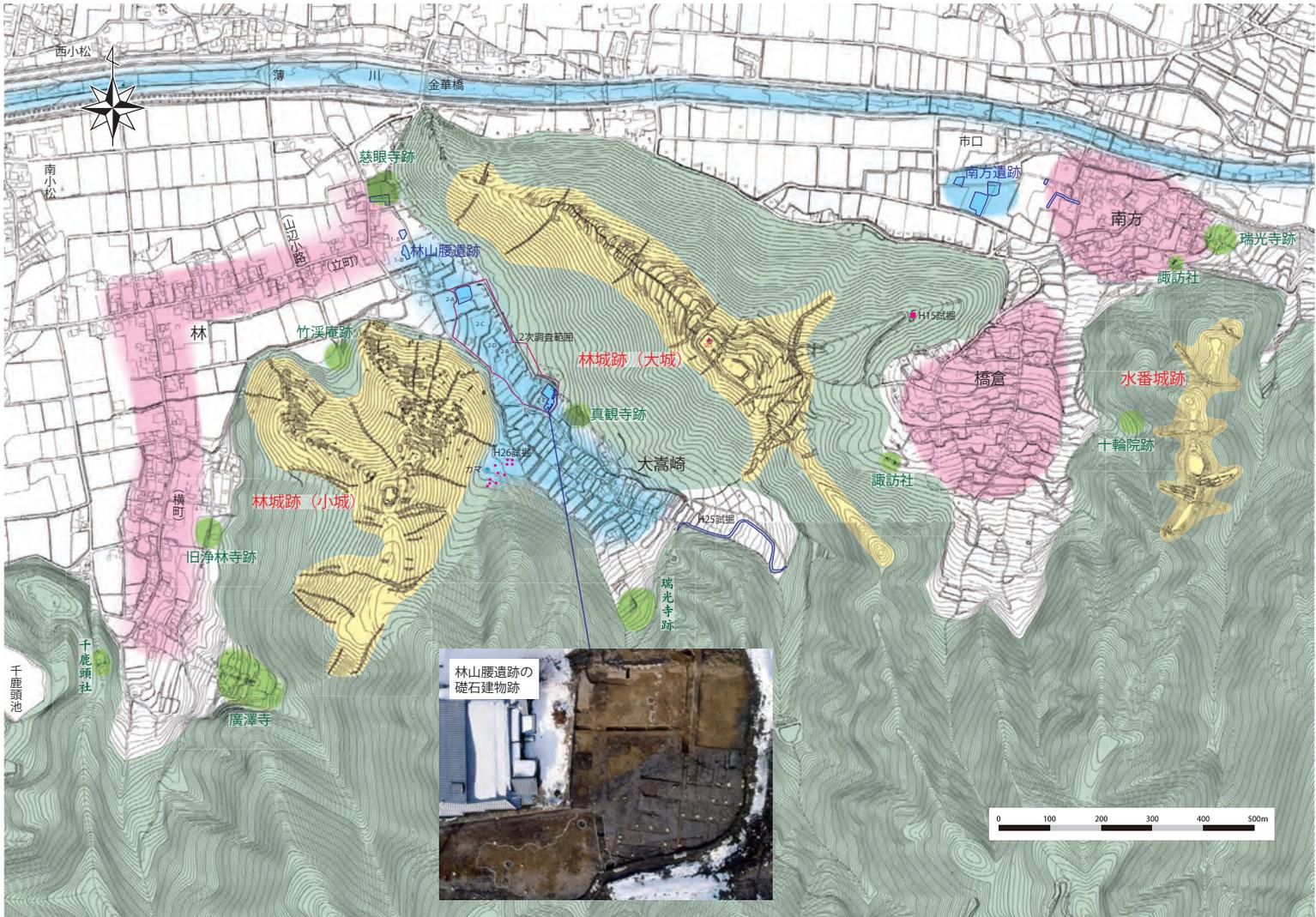
林大城の構造

31

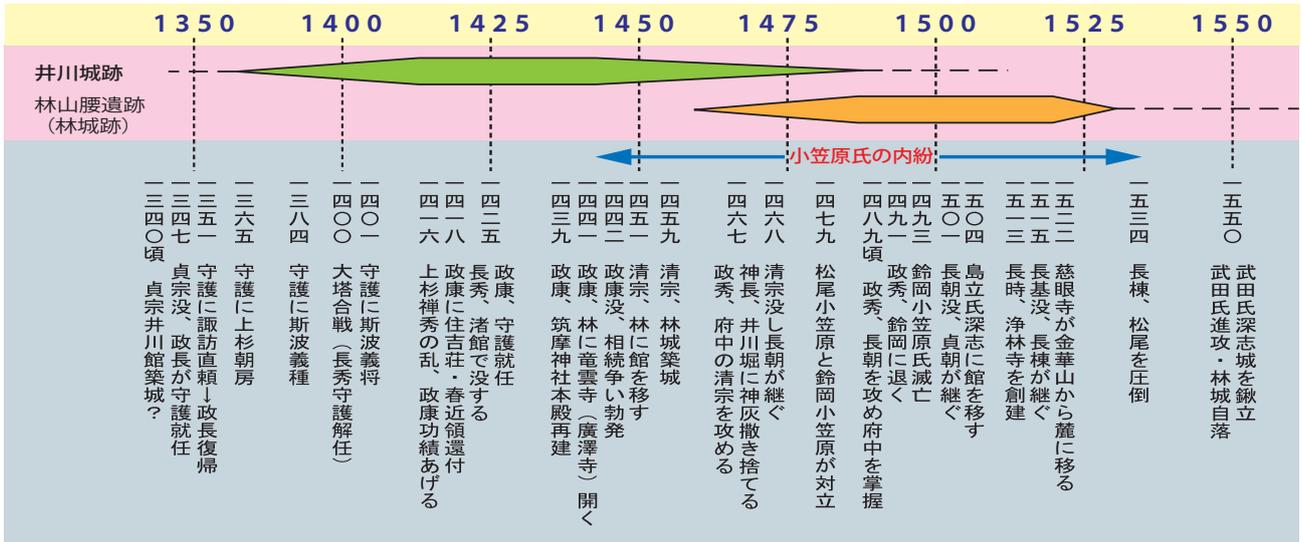


林小城全体図

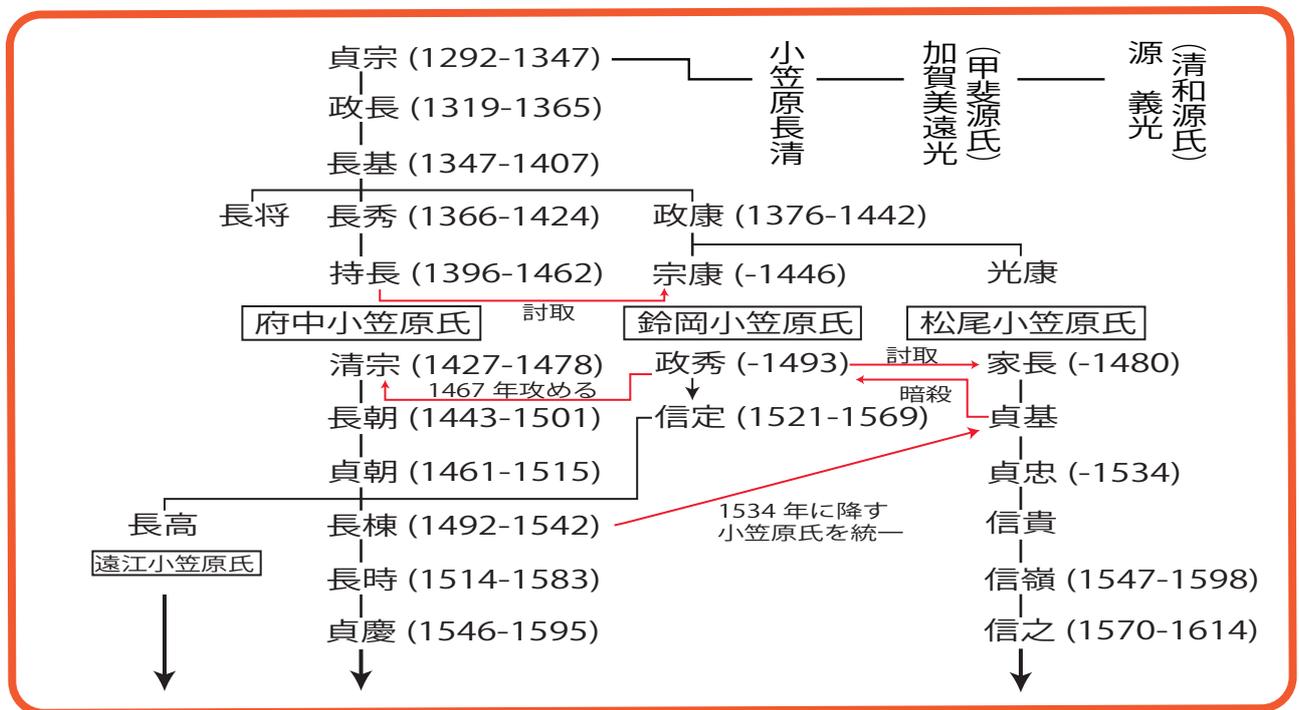
林城跡とその周辺—戦国時代の小笠原氏本拠—



井川から林へ～遺跡の動き・小笠原氏の動き



小笠原氏系図と三家分立



全国のおもな中世・戦国時代の居館跡 (史跡)

